

## 特集にあたって

### Purpose of this feature

伊藤雅一 \*

本特集の執筆者の皆さんの締切が近づいてきた頃に、事務局からこの原稿のタイトルの決めよう依頼が来た。以前の特集記事の担当者は、皆さんだいたい同じタイトルを付けており、日本語は「特集にあたって」、英語は「Purpose of this feature」であった。日本語は問題なさそうなのであるが、英語の「Purpose of this feature」がなんとなく気になった。Purpose は目的、Feature は辞書を見て、特徴とか記事とかであるが、組み合わせるとなんとなく違和感がある。辞書やインターネットで調べてもよく分からないので、最近流行りの ChatGPT に聞いてみた。「特集にあたって」の英語訳を聞いてみると、「Foreword to the Special Issue」や「Introduction to the Special Issue」といった案が出てくる。そういえば、英語の雑誌では Special Issue をよく使うなと思いつつ、では「Foreword to the Features」はと聞くと、自然ではないとして却下されてしまう。よしよし、「Feature」はやはり合わないのではと考え、ここで、「特集記事」の訳として「Special Issue」と「Featured Articles」はどうかと聞いてみると Special Issue は特集号全体に言及する場合、Featured Articles は特集記事に言及する場合と教えてくれ、どちらでも良いことになってしまった。では、Feature を使ったタイトルでということで、「Foreword to the Featured Articles」を聞いてみると、文法的には正しいが、一般的にはあまり使われなく、「Introduction to the Featured Articles」の方が良いと言われてしまい、「Feature」でも良いことになってしまった。結局何が良いのか分からなくなってしまい、最後に、皆さんが使っている「Purpose of this feature はどうか」と聞いてみると、「この特集の目的」という意味で適切な表現です。特集記事や特集号の目的を説明する導入として使うことができます。」ということで、結局、最初のタイトルに戻ることとなった。

使い方が正しいのか、回答の内容が本当に合っているのかどうかはネイティブではないので分からないが、こういった英語のニュアンスまで教えてくれるの

は、今までの辞書やインターネットの検索ではできなかったことのように思う。ちなみに、自動翻訳も無駄な単語が入っていたりするのでまだ分かるが、もう少ししたら判別つかなくなってしまうのであろう。

このように、能力が飛躍的に向上してきた AI であるが、今回の特集記事では、再生可能エネルギーと電力ネットワークを、AI と組み合わせて研究や事業をされている方 7 名に執筆をお願いした。

最初は日本気象協会の佐々木潤氏である。ひまわりなどの衛星を用いた予測で、佐々木氏らは深層学習だけでなく、その中に物理モデルも組み込み研究されている。二人目は日射予測技術を研究されている、産業技術総合研究所の高松尚宏氏である。近年の日射予報の技術的な進展や、前日日射予報の位置づけなどについて解説頂いた。三人目は統計モデルに基づくデータ解析や機械学習が専門である、早稲田大学の藤本悠先生に、最近の研究トピックとして、情報の保護が可能な連合学習を用いた研究の最新の状況についてご執筆頂いた。四人目は、最近、新聞記事などにも掲載されている EnergyColoring 社の高橋真吾氏で、分電盤などに電流計を付けるだけで負荷分離し、見える化などを行っている。五人目の岐阜大学高野浩貴先生は、ビッグデータの解析を得意としており、今回は配電設備の保守点検について、機械学習を用いた手法について紹介頂いた。六人目は電力系統の電力品質や太陽光発電に関する研究を行っている東北電力の有松健司様に、太陽光発電システムの故障を事前に検知する方法について紹介いただいた。最後は、パワエレや太陽光発電システムの研究をされている米子高専の石倉規雄先生ご執筆いただき、太陽光発電システムのロジスティック回帰による故障検出方法についてご紹介頂いた。

この特集記事により、読者の皆様に、AI が再生可能エネルギーや電力ネットワークにどのような適用の可能性があるか、理解が深まれば幸いである。

\* 国立大学法人福井大学